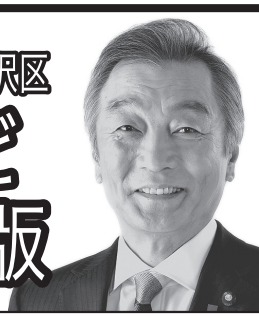
自民党機関紙「自由民主」〈号外〉神奈川1区支部版

まつ　もと　じゅん
松本純
中区・磯子区・金沢区
まちかど政治瓦版

平成30年6月1日号
発行
かながわ
1区支部
発行責任者
平木　茂

6月号
2018年
No.186

松本純ホームページ 毎日更新中！　http:// www.jun.or.jp　▶ 検索キーワード「松本純」



大災害から地域の「生業」を守るために

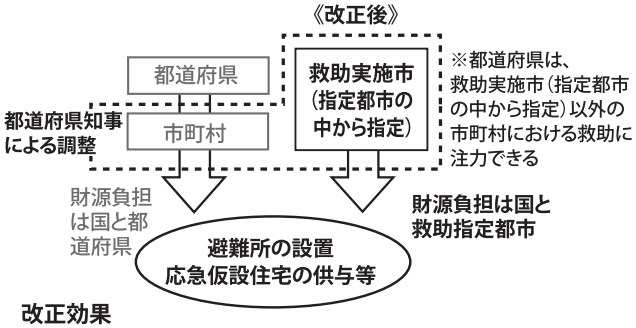
「災害救助法の一部を改正する法律案」を作成

熊本地震では防災担当大臣として対応

松本純は、一昨年から昨年にかけて、防災担当大臣として、国の防災対策を担ってまいりました。そして、熊本地震からの復興支援も担当させていただきました。

大災害が起きた際には、政府は災害対策を推進するための司令塔機能として災害対策本部を設置しますが、熊本地震の際には、松本も災害対策本部長として陣頭指揮に当たり対応しました。

松本が防災大臣を務めていた平成28年12月、「熊本地震を踏まえた応急対策・生活支援策検討ワーキンググループ」は、「より迅速、的確な救助の実施、災害救助の事務を円滑に行うという観点から、救助の実施体制や広域調整の在り方に関しても検討すべき」という報告書を取りまとめました。そして、政府は報告に従う形で、様々な調整と検討を行い、今回、「災害救助法の一部を改正する法律案」が作られることになりました。



改正効果

最大2,700万人（全国20指定都市の総人口）の被災者の救助を迅速かつ円滑に行えるようになるとともに、その他の市町村の被災者の救助も迅速化されるという効果が期待できる。

現在の法律では、大規模災害が発生した場合の権限は、すべて都道府県にあります。そして、都道府県知事が指揮調整する形で市町村が動くことになっています。熊本地震ではこれが大きな問題になってしまったのです。地震で大きな被害を受けた熊本市は政令指定都市であり、本来、県が担うはずの業務の多くを市が担っています。しかし、市が指定した避難所以外にも避難していたことなどを県が把握しきれていなかったため、救援物資や救援ボランティアの配分などに延滞や混乱が生じました。

今回の法改正は、このような混乱を防ぐため、希望する政令指定都市に関して、政令指定都市が直接救助救援活動を行う事とし、都道府県は政令指定都市以外の地域の救助活動に注力できるようにするものです。松本は大臣退任後もこの法改正に向けて、陰ながら尽力させていただきました。

尚、現在、横浜市は救助実施市の指定を希望しており、神奈川県との間で調整中です。

問合せ●〒231-0064 横浜市中区野毛町2-65　電話 045-241-7800　FAX 045-253-0585

まつもと じゅん
松本純 まちかど政治瓦版 中区・磯子区・金沢区

2003年6月16日創刊
発行 かながわ1区支部
発行責任者 平木 茂

6月号
2018年 No.186

問合せ●〒231-0064 横浜市中区野毛町2-65 電話045-241-7800 FAX045-253-0585

いま地域で
（人・まち・出来事）

「新杉田」で広がる笑顔の交流

「らびすた新杉田」テナント会副会長 **田村 正さん（磯子区）**

らびすた新杉田テナント会副会長の田村正さん

JR「新杉田」駅前が一新されたのは平成16年9月のこと。その中核施設がJRや金沢シーサイドラインと屋根付き通路で直結された再開発ビル「らびすた新杉田」です。地域の人たちに親しまれてきた銀行や郵便局、個人商店等を収容、さらに劇場や高層部には地上30階・総戸数308の大規模マンションを併設する等、新時代の地域活力を創り出しています。

「その原動力は個性豊かなテナントの力強い結束力です」と語るのは「らびすた新杉田」テナント会副会長の田村正さん。旧商店街の役員だった田村さんは再開発計画が持ち上がった時、出店条件への負担等から不安を抱えた地権者の代表として施工主等と交渉を重ね、さまざまなリスクを乗り越えテナント同士の力強い絆を実現しました。「人と人のふれあいが失われたのでは発展は望めません」と語る田村さんは、目下「らびすた新杉田」を地域交流の場にしようと奮闘中。５月のGWジャズ＆ダンス祭り、８月の杉田らびすた祭り、10月には1000人規模の参加者で賑わうハロウィーン仮装コンテスト、さらに毎月1回館内広場でのフリーマーケット開催等々、笑顔の交流が広がっています。田村さんは磯子区全体の商店街にも「ふれあいの輪」を広げようと磯子区商店街連合会の会長としても活躍中です。

【2018年5月】
松本議員の活動記録

2日●厚生労働委員会状況把握・情報収集・打合せ
7日●議院運営委員会与党理事懇談会
8日●幹事長懇談会
9日●国民民主党新役員挨拶
●希望の党新役員挨拶
●予算委員会与党理事懇談会
10日●山東昭子みんな健康に76（なろ）うの会
11日●国会対策正副委員長打合会
●本会議
15日●党役員連絡会
16日●憲法審査会打合せ
●志公会夏季研修会実行委員会第1回打合せ
17日●日本薬剤師連盟平成30年度第1回全国会長・幹事長拡大会議
18日●法案説明

5/12 瀬戸神社こども宮すもう大会
●佐野和史宮司より「参加した子供たちがこれからいろいろなことに挑戦し、世の中のために活躍する人に成長することを期待します」と挨拶されました。

5/12 中区肢体障害者福祉協会41回定期総会●物故された会員への黙祷のあと、綱川健一会長は「これからも肢体障害者の皆さんが安心して暮らせる為に活動していきたい」と挨拶されました。

5/14 第27回松本純ゴルフ大会
●ゴルフ日和となり154人の大勢の参加となりました。終了後のパーティには松本純代議士も出席。優勝者のスコアは36,40ハンディキャップ6の70でした。

5/16 日ノ出町町内会総会懇親会
●伊藤哲夫会長は「今期大岡川と街のルール作りができ、皆様のご協力に感謝します」と挨拶。役員改正では伊藤会長が勇退され小串文俊新会長が選任されました。

永田町日記

「永田町」はどんなまち？

「永田町」……。これは現在、国会を中心とした政治の中枢を意味する言葉になっています。永田町には、国会議事堂を中心に総理大臣官邸、衆議院議長公邸・参議院議長公邸、議員会館や自民党を含めた多くの政党の本部などが存在しているからです。その名前は江戸時代初期に永田姓の屋敷が並んでいたので一帯が「永田馬場」と呼ばれていたことに起因し、明治以前は江戸城（現皇居）が近いために、大名屋敷が並んでいました。また、明治以降は現憲政記念館周辺に陸軍省、参謀本部、教育総監部、陸軍航空総監部など陸軍中枢が置かれていたため、永田町又は三宅坂と言えば陸軍参謀を表す言葉でもありました。昭和30年代半ば、これが現在の市谷に移ったことで、この意味も失われることになりました。